

1 単元名 大単元「 現代社会と健康 」 小単元（ 現代の感染症 ）

2 単元について

我が国の疾病構造や社会の変化に対応して、健康課題や健康の考え方が変化するとともに、様々な健康への対策、健康増進の在り方が求められている。したがって、健康を保持・増進するためには、一人一人が健康に関して深い認識をもち、自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくことが重要であることを理解できるようにする必要がある。また、個人の行動選択やそれを支える社会環境づくりなどが大切であるというヘルスプロモーションの考え方に基づいて現代社会の様々な健康課題に関して理解するとともに、その解決に向けて思考・判断・表現できるようにする必要がある。このため、本内容は、我が国において現代の健康課題がみられること、健康の考え方が変化してきていること、健康の保持増進には健康に関する個人の適切な意思決定や行動選択及び環境づくりに関わること、感染症の発生や流行には時代や地域によって違いが見られ、それに対応した対策が必要であること、生活習慣病などの予防と回復には調和のとれた生活の実践とともに疾病の早期発見、治療及び社会的な対策が必要であること、喫煙、飲酒、薬物乱用などは健康や社会に大きな影響を与えることから、個人への働きかけや社会環境への対策が必要であること、精神疾患の早期発見や罹り患後の対策が必要であることなどを中心として構成している。

3 単元の目標

知識・技能	現代社会と健康について、健康を保持増進するための一人一人の深い認識を持ち、自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくための基礎的な事項及びそれらと生活とのかかわりを理解することができるようにする。
思考力・判断力・表現力等	現代社会と健康について、健康を保持増進するための課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、科学的に考え、判断し、それらを表現できるようにする。
学びに向かう力・人間性	現代社会と健康について保持増進するためには、自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくことが重要であることについて関心をもち、学習活動に意欲的に取り組もうとすることができるようにする。

4 生徒の実態と指導観

学級の生徒は明るく、クラスの仲が良く、クラスみんなで楽しんで学ぼうとする姿勢がある。でもしっかりメリハリはあり、集中する時はとても集中して授業に取り組んでいる。現代の感染症についてはインフルエンザなどの大々的によく感染する確率が高い感染症については知っている人が多い。そこで、あまり知識のない感染症についてや潜伏期間、病原体、感染経路などについて理解させ知識を身に着けさせることが重要であると考ええる。

5 単元及び学習活動に即した評価規準

健康安全への知識・技能	健康安全についての思考力・判断力・表現力等	健康・安全について、主体的に学習する態度
国民の健康課題や健康の考え方は、国民の健康水準の向上や疾病構造の変化に伴って変わってきていること。また、健康は、様々な要因の影響を受けながら、主体と環境の相互作用の下に成り立っていること。健康の保持増進には、ヘルスプロモーションの考え方を踏まえた個人の適切な意思決定や行動選択及び環境づくりが関わることを理解している。 感染症の発生や流行には、時代や地域によって違いがみられること。その予防には、個人の取組及び社会的な対策を行う必要があることを理解している。 健康の保持増進と生活習慣病などの予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活の実践や疾病の早期発見、及び社会的な対策が必要であることを理解している。 喫煙と飲酒は、生活習慣病などの要因になること。また、薬物乱用は、心身の健康や社会に深刻な影響を与えることから行ってはならないこと。それらの対策には、個人や社会環境への対策が必要であることを理解している。 精神疾患の予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践するとともに、心身の不調に気付くことが重要であることを。また、疾病の早期発見及び社会的な対策が必要であることを理解している。	現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、それらを表現し整理している。	現代社会と健康についての学習に主体的に取り組み協力しようとしている。

6 指導と評価の計画

時間	主な学習内容	知識	思・判・表	学び
1	健康の考え方と成り立ち			
	私たちの健康とすがた			

2				
3	生活習慣病の予防と回復			
4	がんの原因と予防			
5	がんの治療と回復			
6	運動と健康			
7	食事と健康			
8	休養・睡眠と健康			
9	喫煙と健康			
10	飲酒と健康			
11	薬物乱用と健康			
12	精神疾患の特徴			
13	精神疾患の予防			
14	精神疾患からの回復			
15	現代の感染症 ・新興感染症 ・再興感染症 ・感染症の今日的課題		○	
16	感染症の予防			
17	性感染症・エイズとその予防			
18	健康に関する意思決定・行動選択			
19	健康にかんする環境づくり			

7 本時の展開

① 本時の目標

感染症とは何かについて潜伏期間や感染力なども含めて説明できる
新興感染症と再興感染症が流行する要因をそれぞれ説明してください。

②展開

段階	学習活動【 学習内容 】	指導上の留意点 ◇評価
----	--------------	-------------

導入 8分	・学習目標の確認 ・くしゃみや咳でどのくらい飛沫が飛ぶのか。 ・三択クイズ 普段の会話 咳 1. 0.5～1 m 1. 1～2 m 2. 1～2 m 2. 1.5m～2.5m 3. 3～4 m 3. 約3 m くしゃみ 1. 4 m 2. 4.5m 3. 5 m	・自分が正解だと思う回答に手を上げる。 ・(資料①. ②.) をみせて具体的に説明する。 ・スズランテープを使って分かりやすく説明
展開 32分	【感染症について知る】 発問1 みんなが知っている感染症をあげてみよう ① 自分で考える ② 班で意見交換 ③ 班でまとめた意見を発表 予想される生徒の反応 インフルエンザ, コロナ, 手足口病 【感染症とは何かについて潜伏期間や感染力を知る】 ・感染症とは何か理解する ・さまざまな感染症について病原体、潜伏期間、主な症状を理解する	・ワークシート記入 ・感染症は1類から3類のなかに分けられること、自分たちが出した感染症はどこの類に入るのか危険性を理解する。 厚労省は1類から5類までであるが、学校においては学校保健安全法施行規則の方で1類から5類までしかない。出席停止基準も説明し理解させる(資料③) ・教科書 P 4 4 を使用し説明する。 ・新興感染症と再興感染症があり新たに注目されるようになった感染症を新興感染症といい一回発生し減少した後に再び増加したものが再興感染症ということを説明する。 ・教科書 P 4 4 の資料1を使用し六種類の新興感染症について説明する。新興感染症が出現した理由を伝える。この資料を大きめのものを用意して黒板で分かりやすく説明する。 ・再興感染症が流行する原因や要因について説明する。 ※ワークシート 発問2：感染症のリスクを軽減し、予防するにはどうすればよいか

④ 自分で考える ⑤ 班で意見交換 ⑥ 班でまとめた意見を発表 予想される生徒の反応： 手洗いうがい、マスク、 飲み物などを共有しない ワクチン接種	・一人で考えた後グループ活動をし 発表をしてもらう <思考力・判断力> ◆感染症の発症や流行には時代や地域によって違いがみられることについて、事例を通して整理し、感染のリスクを軽減するための個人の取組及び社会的な対策に応用している。 <A評価とするポイント> 感染症の発症や流行には時代や地域によって違いがみられることについて、事例を通して整理し、感染のリスクを軽減するための個人の取組及び社会的な対策に応用している。今後にどう活かせるのかワークシートに詳しく書き出している。 <C評価とするポイント> 本時の学習を踏まえて、自分の身に起こる可能性があることを理解していないため、ワークシートに詳しく書けていない。 <努力を要する人への手当> 生徒へ、自分の生活を振り返ってもらい、その中でどのような生活をしたら今後感染症にかかりずら 発問3：鳥インフルエンザが起きることによって起こる生活の問題点
① 自分で考える ② 班で意見交換 ③ 班でまとめた意見を発表	一人で考えた後グループ活動をし 発表をしてもらう ・鳥インフルエンザは特に今年流行 ・1羽でも鳥インフルエンザが発生した場合、同じ敷地内のニワトリはすべて殺処分

	鳥 予想される生徒の反応 ・卵の値段が上がる ・鶏肉が高くなる ・人に感染し伝染する だし	・答えは秋 →秋にシベリアなどの北方の寒い地域から温暖な日本に渡ってくる鳥が多く、特に冬鳥（ガン、カモ類）が多い。特に注意が必要なのは11月から翌年2月頃。資料④ 豆知識 ・新型インフルエンザも豚に感染し、それらの遺伝子が混ざり合うことで新しいインフルエンザウイルスができる。そして今までの薬は効かない
ま と め 10分	本時のまとめ ・本時の学習を振り返り、現代の感染症について学んでこれからの日常にどう活かせるか考えまとめる ・まとめたことを発表する	・学習シートに記入するように促す ・発表まで終わったら回収する ・次回の内容について簡単に説明する ・生徒の意見に対してフィードバックしながら発表を聞く

8 板書計画

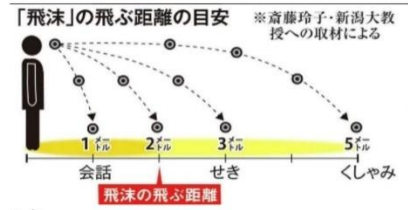
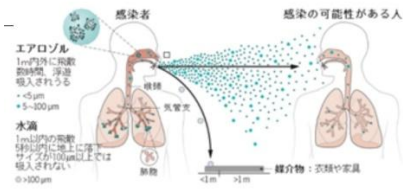
本時の目標 資料①、② 発問1の回答 部類分け	感染症… 新興感染症… 再興感染症… 発問2, 3の回答 最後の意見
--	---

9 資料

教科書 P44, 45 資料1、

資料①

資料②



資料③

学校において予防すべき感染症の種類と出席停止の基準

	感染症の種類	出席停止の基準
第一種	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、黄熱出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器化肺炎(病原体がベータコロナウイルス属 SARSコロナウイルスであるものに限る)、中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る)及び特定インフルエンザ(感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第六条第三項第六号に規定する特定鳥インフルエンザをいう)	治癒するまで
第二種	インフルエンザ(特定鳥インフルエンザを除く)	発症した後(発熱の翌日を1日目として)5日を経過し、かつ解熱した後2日を経過するまで
	百日咳	特有の咳が消失するまで又は5日間の適切な抗感染療法が終了するまで
	麻疹	発しに伴う発熱が解熱した後3日を経過するまで
	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ全身状態が良好になるまで
	風しん(三日はしか)	発しんが消失するまで
	水痘(みずぼうそう)	全ての発しんがかきふたになるまで
	咽頭結膜熱	発熱、咽頭炎、結膜炎などの主要症状が消失した後2日を経過するまで
第三種	結核	病状により学校等その他の施設において感染のおそれがないと認められるまで(目安として、異なった日の喀痰の連続検査の結果が連続して3回陰性となるまで)
	髄膜炎菌性髄膜炎	症状により学校等その他の施設において感染のおそれがないと認められるまで
第三種	つばね、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎、その他の感染症	病状により学校等その他の施設において感染のおそれがないと認められるまで

(平成27年1月21日 学校保健安全法施行規則改正)

第二種の出席停止期間の基準は感染症ごとに定められているが、病状により学校等その他の施設において感染のおそれがないと認めるときは、この限りではない。

資料④

